

梅のつぼみもほころび始め、吹く風にも春の息吹が感じられる今日の佳き日に、神戸市教育委員会事務局 統括官 住谷照雄様始め、保護者の皆様のご臨席のもと、令和4年度神戸市立摩耶兵庫高等学校第53回卒業証書授与式を挙げていただきますことを、教職員一同、心より感謝申し上げます。

ただいま卒業証書を授与しました107名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、入学以来たゆまぬ努力を積み重ね、本校所定の教育課程を修了し、めでたく今日の日を迎えました。改めてその努力に敬意を表します。

4年前の春、本校に入学し、順調な高校生活を送っていた皆さんに、1年生の3月、新型コロナウイルスによる臨時休校という想定外の出来事が起きました。その後も相次ぐ行事の延長や中止、変更など、予測不可能な厳しい状況に直面しましたが、皆さんは、気持ちを切り替え、現状でできることを柔軟に考えて行動し、前へ進んでくれました。学年が上がるごとに、皆さんの成長には目を見張るものがあり、授業や発展的な学習、文化祭や修学旅行などの行事、生徒会活動、部活動、広報活動など、全ての活動に全力で主体的に取り組み、進路実現に向けて頑張る姿勢は、最高学年として後輩への見本となるものでした。本校4年間で様々な経験を積み、培った力は、人生の大きな財産となり、皆さんを支えてくれるに違いありません。皆さんは、一人で成長したのではなく、人とのつながりと支えのお陰で成長してきました。今日は、これまで支えてくれたご家族、友人、先生に心を込めて「ありがとう」の言葉を伝えてください。

多様な人々の価値観を認め、自分を理解し他者を理解する「共感力」は、多様性の尊重を目指す現代社会で、必要となる人間力の一つです。この大切な力を、皆さんが体得していることは、生活体験発表会の鮮明な記憶として残っています。様々な体験を礎とし、未来を見据えた堂々たる発表と、その発表を受容の心で聴く姿勢、互いを認め合う共感力をベースとした発表会は、多くの人に感動を与えてくれました。

「みんなちがって みんないい」多様性の尊重を表現した、詩人金子みすずさんの名句として知られ、共生社会へ向かう私たち、大切なメッセージを伝えています。人はそれぞれに良さがあり、違いがある。あなたはあなたでいい。一人ひとりが一人の人間として尊い存在であり、誰もが幸せに生きる権利をもっている。他者への敬意と尊重、共感を表現した言葉「みんなちがって みんないい」。すでに「共感力」を備えている皆さんは、多様な価値観の人々と共に生きていくこれからの社会で、自信をもって歩いていってください。

私たちは、花や樹木の「根」を普段目にすることはありません。太陽の光に当て、水を与え、肥料をやると、土の中で太い根が育ち、丈夫な幹や枝葉を繁らせ、やがて花を咲かせ、果実を実らせます。木が育ち、花が咲くためには、根っこが不可欠ということです。人間も、人と関わり、本を読み、学び続けて豊かな人間性を高め、様々なことにチャレンジして経験を積み、太い根を育てていけば、丈夫な幹が育ち、いつか必ず素敵な花を咲かせることがで

きると言えるでしょう。皆さんは、卒業の日を迎え、明日より未知の世界へと歩みを進めていくこととなりますが、どの道にいかうとも、自分の可能性を信じた前向きなチャレンジこそが、成長の糧となり、根を育てることに違いはありません。物事がうまくいかない時は、「今できない」を「絶対にできない」と間違えることなく、立ち直る力＝レジリエンスを大切に再びチャレンジし、粘り強く努力を重ねてください。皆さん一人ひとりの人生の樹木に、彩ある美しい花が咲きほこることを願っています。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。慈しみ大切に育ててこられたお子様が、晴れの舞台で卒業証書を受け取り、頼もしく成長された姿をご覧になられ、感激もひとしおのことと存じます。これまで、本校の教育活動に賜りました多大なるご理解とご協力に、深く感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちの時です。時には悩みながらも明るく前を向き、努力を積み重ねた高校生活に、自信と誇りをもち、自分が選んだ道を一步一步、歩いていってください。皆さんの未来が、夢と希望に満ち、心豊かで幸多いものとなることを心から願い、式辞といたします。

令和五年二月二七日

神戸市立摩耶兵庫高等学校 校長 渡邊 孝子